

「はやて」出発

東北新幹線八戸駅が開業

八戸駅の新幹線ホームでテープカットする関係者



東北新幹線八戸―盛岡間が一日開業した。八戸駅の新幹線十一番ホームでは、午前六時五十五分発の東京行き一番列車「はやて2号」に合わせて出発式を行った。木村守男知事はじめ県や八戸市、JR東日本などの関係者がくす玉を割り、テープカットして待望の新幹線時代到来を祝った。

駅ホームでの市民約三百人による「ロング・テープカット」を皮切りに、駅構内や市内では三社大祭の囃子(はやし)やえんぶり、「第九」の合唱披露など、歓迎行事が多彩に繰り広げられ、祝福ムード一色に染まった。

同日、第三セクターの「青い森鉄道」も運行を開始し、八戸駅で出発式を行った。JR東日本から経営分離した並行在来線の本県部分(八戸―自時間二五・九キロ)を引き継ぎ、新たに地域の足として生まれ変わった。

また八戸と弘前・青森を結ぶ「つがる」、八戸と函館・青森を結ぶ「白鳥・スーパードライ」の二つの新特急が同日、「はやて」と北東北・北海道を結んで走り始め、弘前駅などで出発式を行った。

「はやて」は十両編成、定員八百四十四人で八戸―東京間を一日十五往復、八戸―仙台間を一日一往復する。最高時速二百七十五キロ(八戸―盛岡間は二百六十キロ)で、東京―八戸間五九三・〇五キロを最短二時間五十六分で結ぶ。

車両は新型の「E2系1000番代」で、横揺れを軽減する「フルアクティブサスペンション」を営業車両では世界で初めて搭載したほか、列車制御システム「DS-ATC」導入により加速・減速が滑らかになるなど、乗り心地が大幅に向上した。